

# 小説を「正しく」理解しよう

## －本文に書かれている情報を正確に読み取る－

- 1 科目名 国語総合
- 2 単元名 小説（二）
- 3 教材名 太宰治「富嶽百景」 オリジナルプリント使用
- 4 単元の内容

単元の目標と評価規準・評価方法	<p>①単元の目標</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ア 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうことができる。 (読む能力)</p> <p>イ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うことができる。(話す・聞く能力)</p> <p>ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わおうとする。 (関心・意欲・態度)</p> </div> <p>②単元の目標設定の理由 担当する生徒たちにとっては、高校入学後、授業における2回目の小説読解である。1回目の「羅生門」では、登場人物の心情変化とそのきっかけ・理由を正確に読み取ることが重要であると学んだ。しかし、本文に記述されている情報を正確に読み取ること、心情変化の理解を行う能力がまだまだ不十分であるため、上記の単元目標を設定した。</p> <p>③中心となる学習活動 本文の朗読を聞きつつ、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主人公の心情が説明されているところ。</li> <li>2. 富士山の描写がなされているところ。</li> </ol> <p>に、全て傍線を引く（本文プリント使用）。また、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>3. 時間と場所に関する情報が得られるところ。</li> </ol> <p>を○で囲む。それらに基づき、「いつ」「どこで」「どんな富士を見て」「どう思った」か。また、「主人公にその感情を抱かせるきっかけになったことは何だったのか」を、時系列で表にまとめ、グループで確認し合う。この表を参考にしつつ読解を行っていく。</p> <p>④言語活動の工夫 単元の目標アを達成するため、言語活動例「話し合いや討論をする言語活動」を行う。各自で作成した表に基づいてグループ内で討議することで、より正確な情報をまとめ、小説の読解に役立てていく。</p> <p>⑤評価</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;"></th> <th style="width: 35%;">評価規準</th> <th style="width: 25%;">評価方法</th> <th style="width: 30%;">状況Cの生徒への対応</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">関心・意欲・態度</td> <td>①本文中の重要な箇所に傍線を引き、その情報を表にまとめようとする。 ②グループの話し合いに積極的に参加し、より正確な情報をまとめようとする。</td> <td style="text-align: center;">観察（机間指導）</td> <td>・質問があれば遠慮なく申し出るよう全体に伝えておき、また、グループ学習への積極的参加を促す。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">読む能力</td> <td>①本文に記述されている情報に基づいて小説の内容を理解し、登場人物の心情変化を説明することができる。</td> <td style="text-align: center;">観察（机間指導） 定期テスト</td> <td>・読解に行き詰った時は、第2時で作成した、心情変化に関わる情報の表を見直すよう助言する。</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">知識・理解</td> <td>①小説読解に関する基礎知識を身に付けることができる。</td> <td style="text-align: center;">観察（机間指導） 定期テスト</td> <td>・「羅生門」で学んだ「小説読解のコツ」を繰り返し確認することで定着を図る。</td> </tr> </tbody> </table>		評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応	関心・意欲・態度	①本文中の重要な箇所に傍線を引き、その情報を表にまとめようとする。 ②グループの話し合いに積極的に参加し、より正確な情報をまとめようとする。	観察（机間指導）	・質問があれば遠慮なく申し出るよう全体に伝えておき、また、グループ学習への積極的参加を促す。	読む能力	①本文に記述されている情報に基づいて小説の内容を理解し、登場人物の心情変化を説明することができる。	観察（机間指導） 定期テスト	・読解に行き詰った時は、第2時で作成した、心情変化に関わる情報の表を見直すよう助言する。	知識・理解	①小説読解に関する基礎知識を身に付けることができる。	観察（机間指導） 定期テスト	・「羅生門」で学んだ「小説読解のコツ」を繰り返し確認することで定着を図る。
	評価規準	評価方法	状況Cの生徒への対応														
関心・意欲・態度	①本文中の重要な箇所に傍線を引き、その情報を表にまとめようとする。 ②グループの話し合いに積極的に参加し、より正確な情報をまとめようとする。	観察（机間指導）	・質問があれば遠慮なく申し出るよう全体に伝えておき、また、グループ学習への積極的参加を促す。														
読む能力	①本文に記述されている情報に基づいて小説の内容を理解し、登場人物の心情変化を説明することができる。	観察（机間指導） 定期テスト	・読解に行き詰った時は、第2時で作成した、心情変化に関わる情報の表を見直すよう助言する。														
知識・理解	①小説読解に関する基礎知識を身に付けることができる。	観察（机間指導） 定期テスト	・「羅生門」で学んだ「小説読解のコツ」を繰り返し確認することで定着を図る。														
成果と課題	最初に与える発問を「心情変化と風景の関わりと、主人公に風景をそのように見させたきっかけ（本文の記述から直接的に読み取ることのできるもの）を読み取る」の1点に絞ることにより、																

	ただ指導者のガイドに従って理解するのではなく、生徒自身で考え、作品を読み解く訓練を行うことができた。反面、問に対する解答量が多いため、授業中のみで課題に取り組もうとすると、生徒により進捗差が見受けられた。表作りを予習課題や、進捗の遅い場合には宿題にする等の調整を考慮せねばならない。また、この形式の授業は単発で終わるのではなく、小説読解の練習をする際、繰り返し行うことで、初めて力をつけることができるため、継続指導が必要である。
アドバイス 及び 留意点	①小説読解におけるコツを自ら体得させる方法として、あらゆる教材に応用可能。 ②「富岳百景」で行う際は教科書によって編集形態が異なるが、ダイジェスト版（「昭和13年の初秋……」以降）の方が、時系列を意識させやすく、表づくりも行いやすい。 ③生徒自身の力で必要な情報を取り出し、心情変化を確認することが授業の主眼であるため、2時間目の内容については、生徒の作業進捗を観察しつつ指導していきたい。場合によっては、表づくりで1時間、グループでの確認作業で1時間とすることも必要かもしれない。
小中学校との 系統性	(中学校・3年生・C 読むこと) ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。 (中学校・3年生・A 話すこと・聞くこと) エ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。

## 5 単元の学習概要

時間	各時間の目標	主な学習活動の流れと指導上の留意点	評価規準 ↓ 評価方法	状況Cの生徒への対応 ↓ 次時に注意すること
1	○小説を読み解くうえでのポイントを復習し、実践する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>「羅生門」で学んだ、「小説読解のポイント」を復習する。【Cウ】</li> <li>「富岳百景」の朗読を聞き、本文プリントの「富士山の情景描写」と「主人公の心情」が記述されている部分に傍線を引く。また、時間と場所に関する情報が得られるところを○で囲む。【Cウ】</li> </ul> <p>*ぼんやりと朗読を聞くのではなく、読解に必要な情報を収集する重要な時間であることを強調する。</p>	必要に応じてノート等を見直しつつ確認しようとしている。【関】 ↓ 観察（机間指導）  朗読を集中して聞きつつ、本文から必要な情報を見付け出そうとすることができる。【関・読】 ↓ 観察（机間指導） プリント提出	机間指導等の際、状況に応じたヒントを出す。必要があれば、第1段落の情報を指導者が一緒に確認し、その後の作業を自分で行うことができるようにする。 ↓ 特に注意して観察し、作業に滞りがあるようなら必要に応じて助言を行う。
2 (本時)	○本文から読解に必要な情報を抜き出し、時系列でまとめる。 ○グループ内で積極的に話し合い、本文中の情報をより正確に理解する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1時で必要な情報に印をつけた本文プリントに基づき、授業プリント②の表に主人公は「いつ」「どこで」「どんな富士を見て」「どう思った」のか。また主人公にそう思わせたきっかけは何だったかまとめる。【Cア・イ・ウ】</li> </ul> <p>*「時系列でまとめる」ことを強調し、心情の変化に注目させる。 *表にまとめる作業中に読み落としていた情報を見付けたら、本文プリントに傍線等を追加するよう指示しておく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4人グループで、読み取った情報の正確性を確認し合い、不十分な点があれば追加・訂正を行う。【Aウ】</li> </ul> <p>*複数のグループが誤認している内容については、それに関する箇所についてよく読み直してみるよう指示する。</p>	必要な情報を本文から取り出し、まとめることができる。【読】 ↓ 観察（机間指導）  周囲と意見を交換し合うことで、本文から得られる情報への理解を深めようとする。【話・関】 ↓ 観察（机間指導）	机間指導等の際、状況に応じたヒントを出す。 ↓ 留意すべきところとして全体に還元する。特に、複数の生徒が誤認している情報については、それに関する箇所を皆でもう一度よく読み直し、考えるよう指示する。
3	○第1段落を読み解く。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第1段落の読解を行う。【Cア・イ・ウ】</li> </ul> <p>*第2段落からの読解にも役立たせることができるよう、主人公の心情と富士山の描写の関連性について確認する。</p>	第2時に作成した表を参考にしながら読解を行い、必要に応じて情報の追加・訂正を行うことができる。【読】 ↓	周囲と読解内容について確認し合う時間を取る。机間指導等の際、状況に応じたヒントを出す。 ↓

			観察（机間指導） 定期テスト	留意すべきところ として全体に還元 する。
4	○第2段落 を読解す る。	・第2段落の読解を行う。 【Cア・イ・ウ】 *時間の経過・場所の変化にも着目させつつ、 主人公の心情変化と富士山の描写の関連性 について確認する。	第2時に作成した表 を参考にしながら読 解を行い、必要に応 じて情報の追加・訂 正を行うことができ る。【読】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト	周囲と読解内容に ついて確認し合う 時間を取る。机間 指導等の際、状況 に応じたヒントを 出す。 ↓ 留意すべきところ として全体に還元 する。
5	○第3段落 前半を読 解する。	・第3段落前半の読解を行う。 【Cア・イ・ウ】 *記述の順番が時系列になっていない箇所があ ることに留意させつつ、第2段落の最後の 一文にある情報（9月～11月15日まで御坂 の茶屋にいた）とも関連付けて情報を整理し 直し、内容を確認する。	第2時に作成した表 を参考にしながら読 解を行い、必要に応 じて情報の追加・訂 正を行うことができ る。【読】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト	周囲と読解内容に ついて確認し合う 時間を取る。机間 指導等の際、状況 に応じたヒントを 出す。 ↓ 留意すべきところ として全体に還元 する。
6	○第3段落 後半を読 解する。	・第3段落後半の読解を行う。 【Cア・イ・ウ】 ・「心情描写」のみで「富士山」を描写し ていない異質な場面について、なぜなの か考え、意見を交換する。【Cウ】  *場面転換と心情の変化に特に留意させる。 *心情の描写のみで、富士山の姿について書か れていない場面（「娘さんを美しいと思った 」）について、まずは生徒自身が気付くよ うな発問を行う。	第2時に作成した表 を参考にしながら読 解を行い、必要に応 じて情報の追加・訂 正を行うことができ る。【読】 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト  なぜ心情描写と富士 山の描写が関連付 けられない場面があ るのか、意見を交流 することができる。 【関】 ↓ 観察（机間指導）	周囲と読解内容に ついて確認し合う 時間を取る。机間 指導等の際、状況 に応じたヒントを 出す。 ↓ 留意すべきところ として全体に還元 する。
7	○第4段落 を読解し、 本文全体 を振り返 る。	・第4段落の読解を行う。 【Cア・イ・ウ】 ・下山後、甲府の宿から見た富士がなぜ「 酸漿」のように見えたのか、意見を交換 する。 *本文全体の読解とかがわる発問である ことを意識させることができるよ うにする。	第2時に作成し、そ の後、必要に応じて 情報追加・訂正を行 ってきた表を参考に しながら読解を行う ことができる。【読】  グループで積極的に 意見を交換し、作品 についての理解を深 めることができる。 ↓ 観察（机間指導） 定期テスト	周囲と読解内容に ついて確認し合う 時間を取る。机間 指導等の際、状況 に応じたヒントを 出す。

6 第 2 時の学習指導案

本時の位置	2時間目（全7時間）		
本時の学習目標	ア 本文から読解に必要な情報を抜き出し、時系列でまとめる。（読む能力） イ グループ内で積極的に話し合い、本文中の情報をより正確に理解しようとする。 （関心・意欲・態度）		
事前の準備	① 予めグループ分け（4人が目安）を行い、連絡しておく。 ② 学習プリント・ホワイトボードセット・付箋を準備する。		
	学習内容	学習活動	指導上の留意点及び評価
導入 4分	□本時の課題について知る。	① 授業者から学習プリントを受け取り、本時の課題と活動内容について説明を受ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文を深く理解するためには、まず、明らかに記述されている情報を正確に読み取っておくことが必要であることを強調しておく。</li> </ul>
展開 1 25分	□個人学習	② 前時に用いた本文プリントを参考にしつつ、①で説明を受けた課題に各自で取り組む。	<b>目標アに対する評価規準と評価方法</b> [規準] ・ 本文から読解に必要な情報を抜き出し、時系列でまとめることができている。【読】 [方法] 観察（机間指導） [状況Cの生徒への手立て] ・ 個々のつまずきに応じて助言を行う。必要があれば、第1段落のみ、指導者が共に表作りを行い、第2段落からの作業の参考とする。
展開 2 20分	□グループでの確認	③ ②で各自作成した表を持ち寄り、読み取った情報が一致しているかどうか確認し合うことで、より正確な理解をしていく。	<ul style="list-style-type: none"> <li>各グループにホワイトボードとマーカーのセットを配付し、情報を整理するのに使いさせる。</li> <li>各自の表に予め整理した情報を訂正する際は、見え消しにしたり、付箋を用いたりすることで、思考の後が残るようにさせる。</li> <li>必要があれば、他グループにも意見を求めてみるよう助言する。</li> <li>机間指導を積極的に行い、各グループの活動をよく観察することで、次回からの読解の際、特に留意して確認を進めねばならないことを把握しておく。</li> </ul> <b>目標イに対する評価規準と評価方法</b> [規準] ・ グループ内で積極的に話し合い、本文中の情報をより正確に理解しようことができている。 [方法] 観察（机間指導） [状況Cの生徒への手立て] ・ グループ内における習熟度の高い生徒に、皆の理解を確認しつつ話し合いをリードするよう促す。 ・ 状況Cの生徒のプリントを確認し、他の生徒と比べ、情報が抜けているところについて、何か見落としがないかどうか本文に立ち戻って考えさせる。また、正確な読み取りができている部分を指摘し、積極的に発言するよう促す。
まとめ 1分	□次時予告	④ 次時より、本時に確認した本文中の情報に基づき、小説読解を行っていくことを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の活動の中で確認しきることができない部分や疑問点等が残ったところは、授業における読解の中で触れていくため、特に注意して学習していくよう伝えておく。</li> </ul>